

地盤工学会誌

平成17年7月号 第53巻第7号

土と基礎

●「土と基礎」編集委員会

本号担当編集委員：梅 崎 健 夫（主査）

河 井 正	北 本 幸 義	鈴 木 耕 司
塚 原 修	荒 井 幸 夫	白 旗 克 志
沢 田 和 秀	堂 元 史 博	中 對 浩 之
松 山 裕 幸		

本号の編集にあたって

人類の活動と不要物や汚物の発生は切っても切れない関係です。つまり、現在のように法的な手続きのもとに厳しい条件を課せられて規制された廃棄物処分場が建設される前から、人類の活動とともに廃棄という行為は行われてきました。そのため、現在の基準からすれば、いわゆる「不適正処分」された廃棄物も存在します。人類の活動範囲が広がるとともに、そのような場所の土壌汚染等の環境問題がクローズアップされ、適正な処分場の建設のみならず、古い処分場の適正化も大きな課題となっています。本号の論説は「破棄物処分の適正化と地盤工学」というタイトルで、京都大学の勝見先生に、廃棄物処分場の適正化に関する地盤工学的問題をレビューしていただきました。廃棄物の適正な処分に関わる課題は、地盤工学の中でも、今最もニーズの高い課題の一つと言えるのではないのでしょうか。過去の「土と基礎」小特集をざっと眺めただけでも、「土壌汚染とその対策」（平成16年9・10月）、「廃棄物処分場」（平成15年8月）、「地盤工学とリサイクル」（平成15年5・6月）などがすぐに目に付きます。廃棄物処分場に関する小特集から約2年が経過した現在、廃棄物処分に関わる地盤工学の現状はどのようなになっているのでしょうか。

本号は、特定のテーマを持たない無題号です。掲載された7編の論文のキーワードを拾ってみると、飽和度、地すべり、液状化、透水、圧密、山留め壁、アンカー基礎など、論文の内容は多岐にわたっております。このように、無題号は特定のテーマの元に編集された特集号に収まりきらない、より広い地盤工学的な情報を提供するために設けられてきました。しかしながら、すでに6月号の会告にてご報告させていただきましたように、無題号に分類される内容の論文は、実務と現場に直結した学術・技術情報を出来るだけ早く多くの会員に配布することを目的に、今後は地盤工学会の電子ジャーナルにて募集させて頂くことになりました。

最後に、本号にご執筆頂いた方々にお礼を申し上げるとともに、残り数号となりました無題号が、地盤工学に関するより広い情報提供誌として多くの会員の皆様のお役に立てれば幸いです。

河 井 正（かわい ただし）

地盤工学会のホームページ URL <http://www.jiban.or.jp/>国際地盤工学会ホームページ <http://www.issmge.org/>

編集兼発行者：社団法人 地盤工学会